

特集

赤ちゃんに今 してあげたいこと

編集担当 灘 裕介

- 15 ● 乳幼児健診を通しての赤ちゃん支援—悩みと課題 石原 詩子
- 20 ● 個別作業療法で赤ちゃんとお母さんを支援するポイント 灘 裕介, 他
- 26 ● 地域に根づく児童発達支援センターとして、赤ちゃんに今してあげたいこと 灘 裕介, 他
- 31 ● 障がいをもつわが子の子育て—父として、作業療法士として 森村 慎吾
- 36 ● 子育てに活かす作業療法、作業療法に活かす子育ての経験 渡邊 基子

烈闘作業療法

- 8 ● 最後まで面白くさわやかに過ごすために 浅野 有子さん

- 42 **【新連載】 未来の作業療法☆設計図**
 “複業” からひも解く作業療法の未来デザイン 細川 寛将
- 58 責任者はつらいよ, でも楽しいよ
 確かな現場実践経験はスタッフとのコミュニケーションにより
 自身を「責任者」へと導いてくれる 宇田 薫
- 62 **【最終回】 ADL 潜考と日常実践**
 入浴動作の評価と介入 三瀬 和彦, 他

- 6 らんどまーく
 平成から新しい時代に向けて 田尻 寿子
- 46 OTとして私が大切にしていること
 けん玉で広がる作業療法の世界 吉本 秀一
- 50 女性 OT ひとりで悩まないで
 多くの女性 OT が悩む「周囲の理解」について改めて考える
 一子育てを終えた女性 OT から伝えたいこと 宇田 薫, 他
- 52 なんでもできる 100 均グッズ
 簡単ズボンエイド 濱田 一登志, 他
- 54 **【3 年目編 新連載】 3 年目 OT あゆみちゃんの回復期リハ病棟記**
 新人 OT がやってきた 吉川 歩
- 56 **【新連載】 社会の目・OT の目**
 作業科学のレンズで見た
 “大分県手づくり万菜おせち”の意味は? 葉山 靖明
- 57 「2018 年版 SDGs インデックス&ダッシュボード」が公開
 ー日本は順位後退 宮田 千恵子
- 69 レポート
 産み育てやすい社会に向けて 泉 真理

- 巻頭頁 はじまりのことば…川口 淳一
- 目次前 カメラマン川上哲也の見た世界
- 49 書評
- 61 既刊案内
- 71 インフォメーション
- 72 今月の表紙の「ことば」
- 73 次号予告

◎烈闘作業療法

Passion of
Occupational Therapy

最後まで面白く
さわやかに
過ごすために

浅野 有子さん

デイサービス 太陽と鳩たち
OT38年目、茨城県在住

浅野有子さんがデイサービス「太陽と鳩たち」を開設すると聞いたのは、2017年のことである。59歳での起業と聞き、浅野さんのパワフルさに驚きながらも、「なぜ長年、介護老人保健施設に勤めた浅野さんが今、デイサービスを？」という疑問が頭をよぎった。

オープンから7カ月が経った2018年8月、ついに取材の機会を得た。そして、開設に至るまでの想いや運営のポリシーを聞いた時、すべて合点がいった。浅野さんの長年の作業療法経験に根差した生活観や人生観が、「太陽と鳩たち」をほかとは一味違った“おもしろい”デイサービスにしていた。(編集室)

炭鉱の町で リハの存在を知る

——まずは、OTをめざされるまでのことからお聞かせください。



インタビューの様子がムービーで
ご覧になれます

乳幼児健診を通しての赤ちゃん支援 —悩みと課題

Utako ISHIHARA

石原 詩子

●京丹波町 子育て支援課, 作業療法士

内容を理解するためのキーワード ●育ちの支援と育児支援 ●障がいの有無にかかわらず
赤ちゃん支援 ●今と未来

赤ちゃんに今してあげたいこと

作業療法のポイント

- 町に住むすべての赤ちゃん・養育者に関わり、作業療法の視点を踏まえて「あそび」の意味を共有する。
- 親子それぞれの特性、生活環境に目を向けて、それらの相互作用を考慮し、他職種と協業して支援の方向性を考える。
- 今（養育者が直面する困り感・赤ちゃんの気になる姿）と未来（今の関わりが続くことでの育ちへの影響）を捉え、今できることを考える。

乳幼児健康診査の業務

乳幼児健康診査（以下、乳幼児健診）は、母子保健法により市町村で実施することが定められている。京都府船井郡の京丹波町では、乳児期前期（生後3、4カ月）、乳児期後期（生後10、11カ月）、1歳半、2歳半、3歳半時に実施している。筆者は、乳児期後期健診に密接に関わっている。以下に、ここでの業務について述べる。

京丹波町の乳児期後期健診には、医師、保健師、歯科衛生士、管理栄養士、OTが関わる。OTは、「あそび」のブースを担当している（図1）。この時期に大事にしたい「あそび」のエッセンスについて、3組程度の親子を1グループとして話をす。また、待ち時間などを過ごす赤ちゃん、養育者、親子の様子を観察する。養育者の質問や訴えが保健師からOTに伝えられた場合は、個別に対応する。



個別作業療法で赤ちゃんとお母さんを支援するポイント

Yusuke NADA

Kanou YAMASHITA

Kaori MATSUSHITA

灘 裕介*¹，山下 かのう*²，松下 かおり*³

*¹ 有限会社あーと・ねっと，作業療法士*² 特定非営利活動法人 Homo Ludens ぶらうらんど，保健師・精神保健福祉士*³ 特定非営利活動法人 Homo Ludens ぶらうらんど，保育士

内容を理解するためのキーワード ● 乳児 ● 子育て ● 相互交流

作業療法のポイント

- 乳児期には運動発達の遅れの指摘が多いが、それを運動だけの課題と捉えず、感覚面・認知面・コミュニケーションとの関連も踏まえ支援する。
- 乳児に直接関わる前に、まず乳児の姿勢や、養育者がどうサポートしているかを確認する。
- 関わりの際は、養育者の緊張をほぐすことも重要である。周囲の雰囲気は乳児にも伝わる。

赤ちゃんに今してあげたいこと

はじめに

筆者が所属する有限会社あーと・ねっと（以下、当社は、さまざまな契約に基づいたOTによるサービスを提供している。自由契約に基づく個別セッション、講師派遣や業務委託契約によって医療機関や福祉事業所に訪問し、治療実践や、職員へのスーパーバイズやコンサルテーションを行うことも多い。また、放課後等デイサービスの福祉事業所も運営している。

上記のような業務をこなしている中で、筆者の仕事の特徴は、年齢や障害に関係なく、発達に心配事を抱える人が相談に来られるという点である。保護者が直接相談に来られる場合もあれば、支援者からの相談もある。そのような現状のなかで、最近増えているのが、乳児期の相談である。

当社のホームページを見て、保護者から直接相談につながる場合もあるが、保健師などからの紹介も多くなってきている。また、セッションに同



地域に根づく 児童発達支援センターとして、 赤ちゃんに今してあげたいこと

Yusuke NADA

Kanou YAMASHITA

Yonemi KAWADA

灘 裕介*¹，山下 かのう*²，川田 米實*³

*¹ 有限会社あーと・ねっと，作業療法士*² 特定非営利活動法人 Homo Ludens ぶらうらんど，保健師・精神保健福祉士*³ 特定非営利活動法人 Homo Ludens ぶらうらんど

内容を理解するためのキーワード ● 新生児訪問 ● チーム療育 ● パートナーシップ(保護者との)

作業療法のポイント

- 就学前の、約 5 割の子どもたちが発達面でなんらかの課題を有し、早期からの継続した支援を必要としている。
- 新生児期から OT が支援することは、養育者にとっての療育への垣根を低くし、将来に続く信頼関係を築く土台ともなる。

はじめに

特定非営利活動法人 Homo Ludens（以下、Homo Ludens）は、高知県中西部、中部、東部地域で「児童発達支援事業」「放課後等デイサービス事業」を実施しており、2016年4月に児童発達支援センターを開所して、全4事業所を運営している。4つの事業所は、各所、それぞれの地域ニーズを踏まえての事業運営を実施しており、個別療育を主体とする事業所や、年長を中心としたドラマワークやプレスクールを主とする事業所、乳児期からの早期療育を実施する事業所がある。全事業所の統括の役割を担う、最も新しい施設は「ぶらうらんど kouminkan」といい、児童発達支援センターとともに、障害児相談支援事業所と保育所等訪問支援事業を包括している（対象地域9市町村：芸西村・安芸市・安田町・田野町・奈半利町・北川村・馬路村・室戸市・東洋町）。

本稿では、ぶらうらんど kouminkan における OT

障がいをもつわが子の子育て —父として、作業療法士として

Shingo MORIMURA

森村 慎吾

●姫路市総合福祉通園センター ルネス花北, 作業療法士

内容を理解するためのキーワード ●障がい受容 ●子育てと作業療法 ●作業療法士の夫婦

要旨

- 寝たきりの臥床状態でも、目覚めた時の身体の動きや感覚調整面のことを考えて関わる。
- 感覚過敏に対しては、受け入れられる部位や刺激量から、楽しみながら取り組む。
- 子どもの注意の向き先や、介入の受け入れの“つもり”や、関わりコントラストの感じ方を意識した関わりをする。

赤ちゃんに今してあげたいこと



はじめに

思い返すと、つらくて悲しくて灰色がかった世界の中で過ごしていたように感じる。今は、長男の話をするためにためらいはなくなったが、つい数年前までは、長男の話をするだけで心がズキッと痛んでいた。長男は、生後2カ月でてんかん重積発作を発症し、脳性麻痺となった。よく笑う元気いっぱいの子だったのが、まるで別人のようになった(図1)。

発作が起きてから、長男が3歳を迎える頃までは毎日が苦勞の連続だった。生活リズムは大きく崩れ、“今朝も生きていますか?”と毎日襲ってくる不安、そして、自分が淡く思い描いていた家族像が崩れたショックで、世間から置いてけぼりをくらったような感覚に陥っていた。本稿では、長男が1歳半になるまでを中心に、大変な生活の中で感じた小さな幸せについて、障がい児の親としての視点と、OTとしての視点でお伝えできればと思う。

子育てに活かす作業療法, 作業療法に活かす子育ての経験

Motoko WATANABE

渡邊 基子

●介護老人保健施設 ゆうゆう, 作業療法士

内容を理解するためのキーワード ●子育て ●アセスメント ●環境

赤ちゃんに今してあげたいこと

作業療法のポイント

- OTとしての視点が子育てに活かせる。また、子育ての経験がOTとしての仕事に活かせる。
- 子育てにおいても作業療法においても、対象者のアセスメントと、環境を整えることが重要である。
- 人生におけるすべての経験がOTとしてのスキルアップにつながる。

はじめに

本稿を書いている今、3回目の育児休暇(以下、育休)から復職して約2カ月が経とうとしている。わが子たちは、6歳・4歳・1歳の3男児で、仲良く保育所に通っている。この子たちが生まれた時、それぞれ1年間の育休を取得し、1歳になる時に復職してきた。筆者の職場は介護老人保健施設で、以前は入所・通所・訪問リハに従事していたが、現在は管理職として管理・運營業務に従事している。OTとして業務上で「赤ちゃん」に接することはないが、自らの子育ての経験が、OTとしての仕事に役立っていると常々感じている。

そこで本稿では、子育てに活用されるOTとしての視点、作業療法に活用される子育ての視点をご紹介します。子育ては楽しいものであり、かつOTとしてのスキルアップにもつながるものであることをお伝えしたい。なお、子育ては乳児期から青年期の子を対象にするものであるが、本稿では、一般的な育休期間である誕生から1歳までの子育てについて限局して述べる。



【新連載】

未来の作業療法☆設計図

1

“複業”からひも解く 作業療法の未来デザイン

細川 寛将

(医療法人陽明会・株式会社クリエイターズ, 作業療法士)

なぜ、今「複業」がOTに 求められているのか

はじめに、2018年は「副業元年」といわれている。その最たる理由は、政府が進める働き方改革の一環で、これまで「原則副業禁止」としていたモデル就業規則（厚生労働省）が2018年1月に「原則副業容認」とする内容に改定され、副業・兼業の促進に関するガイドラインが公表されたことだといえる。筆者は、こうした時代の変化を受け、遅かれ早かれ作業療法業界にもその変化の波が訪れると考えている。本稿では、そうした変化を1人のOTとして感じとり、未来に向けたビジョンを描き、どのように行動をすべきかを考える指針になればと思い、さまざまな立場・視点から新しい働き方を提示していきたいと考えている。なお、詳細は後述するが、用語として、本稿で筆者は収入の補填の意味合いが強い「副業」ではなく、自らの価値提供を複数の事業に対して行う「複業」という用語を用いる。

作業療法業界における「働き方」の 現行課題

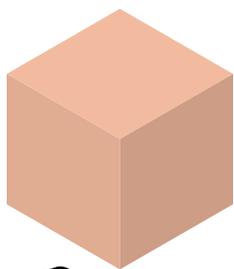
まず、筆者が考える作業療法業界における働き方の現行課題を以下の「3つ」にまとめる。

1. 社会保障という「プラットフォーム上」の職業

2018年には医療保険・介護保険の同時改定があったが、改定により得られる報酬が変化するのが医療・介護職の宿命である。少し飛躍した表現をすれば、「株式会社 日本国」のプラットフォーム上で働いている身であるともいえる。何事もそうであるが、こうした1つのプラットフォームに依存する働き方というのは、やはりリスクがあると考えている。また、現在の診療報酬・介護報酬の仕組み自体は「個人の質」の部分が尊重されているとはいいがたい。

たとえば、腕が良い外科医とそうでない外科医でも、同じ術式の場合、得られる報酬が同じだ。腕が良いOTと新人OTでも得られる報酬は同じ。

OTとして 私が 大切にしていること



けん玉で 広がる 作業療法の 世界

一心病院 リハビリ科・公益社団法人日本けん玉協会、
作業療法士・理学療法士

吉本 秀一

作業療法と理学療法の両方を学びつつ、自分探しをしてきました。そのなかで、「けん玉」との出会いが私の人生を大きく変えたように思います。けん玉は単なるおもちゃではなく、「運動療法のひとつ」であり、「遊び」感覚が繰り広げるクリエイティブな世界を秘めています。本稿では、私がこれまでにけん玉を通して学んだ内容を紹介します。けん玉は、使い方次第であらゆる可能性を秘めており、その発想を応用していけば、けん玉だけではなく、さまざまなツールでより良い作業療法へと展開できるのではないかと考えています。

OT けん玉でリハへの模索

北海道大学医療技術短期大学部（現在は北海道大学医学部保健学科）を卒業し、OTになってからすでに31年が経ちました。縁あって東京都内の一心病院に就職し、働きながら社会医学技術学院の夜間部にてPTの資格も取得し、現在に至っています。

けん玉との出会いは高校時代ですが、本格的にけん玉を練習するようになったのは、夜間部の1年生の時です。ウエイトトレーニング部に所属していたのですが、そのメンバーでけん玉を始めたのがきっかけで「けん玉クラブ」を設立し、放課後にけん玉の練習をしていました。そして、学校の文化祭（ふくろう祭）で、当時（1991年、27年前）日本けん玉協会の藤原一生 初代会長のご自宅を訪ねて特別講演をお願いしたところ、快諾してくださり、「人生の解剖」と題して講話していただきました。

この講演は、戦中のお話から、童話作家となつてからの『タロ・ジロは生きていた—南極・カラフト犬物語』（教育出版センター、1983年）の秘話まで藤原会長の人生を垣間見る内容でした。そして、藤原会長のけん玉への思いを聴き、子ども

宇田 薫

(医療法人おもと会
統括リハビリテーション部, 作業療法士)

責任者はつらいよ、 でも楽しいよ

6

確かな現場実践経験はスタッフ とのコミュニケーションにより 自身を「責任者」へと導いてくれる

はじめに

私は今年でOTとなり30年目になるが、私以上の世代のOTの多くは、作業療法部門の立ち上げや拡大に関わってこられた。私自身もこの30年間、部門・事業所の立ち上げやリーダー、サブリーダーとしての経験を積むなかで、常に「責任」を負う立場であった。実際、現場でのスタッフとのやり取りのなかでも、「私が責任をとるから、やってみよう」と発したことは幾度となくある。幸い、大きな問題に至ったことはないが、「私が責任をとる」とは、「科長職を退く」「退職願を出す」ことであるなどとは一切考えておらず、何か問題が起きた時は、「その問題に最後まできちんと対処しよう」と考えていた。よって、自身では「責任者」というよりもリーダーやマネジャーという感覚のほうが強いが、本稿ではそれらの立場での「責任」を述べる。

本コラムのタイトルのように、「責任者はつらいよ、でも楽しいよ」と思えるようになったのは、ここ数年のことかもしれない。「つらい」は決してマイナスなことではなく、「次のステップやス

テージのための時間・経験」「新たな発見に導いてくれる時間・経験」であるし、「つらい」と「楽しい」が単独で存在することは少なく、いつも共存しているとも思えるようになった。その瞬間は「これ以上つらい経験はない」と感じていても、後から振り返れば、「あのつらい経験はしない方がよかった。なかった方がよかった」と思うことはほとんどない。今では、少々の難題に出くわしても、「最終的には整えられる」という姿勢で臨むようになった。しかしながら、実際は、まだ自分の中ですっかり引きずっている経験もあり、それは、自分がそれを理解できる・受け入れられる経験値に達していないからだと考え、今後の課題として大事に心に留めている。

よって、以下に述べる私の経験や考え方は、あまり悲観的な内容にはならぬようにした。1人でも多くのOTが責任者という役割にチャレンジしたり、責任ある働き方について考えるきっかけにしていいただければ幸いである。

入浴動作の 評価と介入

三瀬 和彦*¹, 長坂 真由美*²

*¹甲府城南病院 リハビリテーション部, 作業療法士

*²ひかり訪問リハビリテーション事業所, 作業療法士

はじめに

入浴動作は、他の基本的な生活動作を含む、工程の多い複合的な生活動作である。自立に至るには多くの課題をクリアしなければならず、難易度が高い動作といえる。一方では、日本人であれば、1日の疲れを癒す、身体を清潔にするという目的に基づいた欠かせない生活動作ともいえる。昨今では、衛生面への対応として、シャワー浴のみとなる方も増えてきている。しかし入浴動作は、本質は自己（身体・精神）への関わりであり、マネジメントである。

環境による影響にも左右されるが、入浴には移動・更衣・洗体といった動作がすべて達成されなければならない。浴槽に浸かることや洗体は、毎日遂行しなくても生命に影響を与えることは少なく、ADLのなかで重要度は高くないものの、必ず実践される動作である。そして、動作の性質上、衣服をまとわない身体への関わりであるため、非常にプライベートだという特性もある。

このような入浴動作の分析と評価、生活や動作特性の視点から、重要な点や、OTとして関わるべき要素について考えていきたい。

入浴動作の分析

1. 一般的な入浴動作の評価

Functional Independence Measure（以下、FIM）に

おいては、直接的に示されているのは清拭（入浴）と浴槽移乗の2項目である。しかしながら、入浴に必要な動作としては、浴槽までの移動や更衣、整容の中に含まれている動作もある。これらを合わせると、整容・清拭・更衣（上衣・下衣）・浴槽移乗・移動（歩行・階段）となり、7項目に絡むこととなる。それぞれの動作の自立度を考える場合、入浴動作に要する基本的な要素を把握できることと、入浴動作に特化した内容を分けて評価する必要があるだろう。

Barthel Index（以下、BI）では、各項が自立かどうかの選択となっている。BIも他の動作、移乗や整容などを考慮すると、全体の約半分の点数が入浴動作に絡んでいる。したがって、これらの定量的評価においては、対象者のもっている基本的な生活動作遂行能力の把握は可能であるが、入浴動作においては、生活の流れのなかでの入浴、また入浴動作自体の流れのなかでの評価分析も重要となる。特に、浴室という環境やプライベートな動作であること、また湯に浸かるという特殊な状況なども考慮する必要がある。

2. 入浴動作の特徴

①環境要因

比較的、狭い空間内での移動となる。また、お湯を使用する関係上、浴室への移動の際に段差がある。また、浴槽やカウンターがあり、シャワーチェアや、洗髪剤などを置く台が突き出した状